

# 揺らぐ安全神話

柏崎刈羽原発

## はがれたベール

### 検証・設置審査

<7>

東京電力が柏崎刈羽原発の設置申請時に周辺海域の断層評価で犯したミスをはじめ、多くの失態を見抜けなかった安全審査。国は、その検証に欠かさない議事録を保管していなかった。

世界最大の原発集積地の同原発で設置の妥当性を最初に検討した1号機の部会議事録が、なぜ存在しないのか。原因を探ると、国の無責任さが浮かび上がる。原発の安全審査を担う原子力安全委員会から新潟日報社に届いた通知書がある。1号機を審査した「1

## 消えた議事録

# 住民側、国隠ぺい疑う

### 元職員「ないはずがない」

にあり、各分野の専門家が詳細な検討を行っていた。原子力委から審査業務を引き継いだ安全委は議事録がないため「少なくとも現時点で振り返って当時の審査状況を知ることができない」と検証が困難な事実を認める。

#### 別部会保存

実は、議事録がないこと

にいた武山謙一(五七)も「議

録を見ると、耐震安全性を

設置許可から三十余年

の和光弘(五三)は国による

久五郎は「三十年前をどう

(文中敬称略)

事録は取っていた。あるいは「ずだ」と言い切る。塚腰の記憶は鮮明だ。「事務局は議事録に、こういう質疑応答があり、この点が宿題として残ったというのを記録した。部会と分科会とを合わせて一つのファイルにしているはずだ」

東京電力柏崎刈羽原発1号機を審査した「原子炉安全専門審査会第120部会」の議事録が存在しないことを伝える通知書

検討する分科会のもので、百四十枚に上る。専門家の発言の一つ一つまでが細かく記されている。塚腰らの証言に加え、ほかの原発に関する保存実績から、120部会議事録は作成された後に紛失した

「ないはずがない」と答弁。い」と歯切れが悪い。倉庫には、柏崎刈羽関係で1号機以外の全六基の部会議事録がそろっている。1号機と同じ七〇年代に審査された他原発四基の審査もきちんと保管されているのだ。

#### 国に反省なし

情報公開の徹底を求めた地元は、国はどうやって審査に問題があっても、証拠がなければ批判されない

過去を省みない国の姿勢は、非公開という安全審査の在り方に如実に表れている

原子力安全委員会事務局 局長 袴 著 実  
平成19年10月24日付けで受け付けた行政文書の開示請求について、行政機関の保有する情報の公開に関する法律第9条第2項の規定に基づき、下記のとおり、開示しないことと決定しましたので通知します。

- 記
- 1 不開示決定した行政文書の名称  
東京電力柏崎刈羽原子力発電所1号炉の安全審査会第120部会議事録
  - 2 不開示とした理由  
調査の結果、当事務局において開示請求に係る資料が保有していないことが判明したため

